

留学体験作文

1990055 ショウヨクセン

お茶の水女子大学に交換留学の一年間、前期と後期が全然違います。前期は予想どおり、普通に通学して、教室に授業を受けたり、友達と食堂に昼ごはんを食べたり、休日に東京のあちこちへ遊んだりしました。しかし、後期は一変しました。急にコロナウイルスが爆発して、学期の始まりが延期されたのみならず、授業も全部オンラインで受けるようになりました。緊急事態宣言の時期に、どこへも行けなくて、ずっと寮にいて、一ヶ月外食しなかったこともあります。こんなことがあって、最初はかなり落ち込んでいたが、気分を直したら、今学期は前よりもっと楽しくしていて、各方面も成長しました。

授業のこと

将来、日本に就職したいので、今学期これに関する授業を二つ取りました。一つは企業の内部制度を紹介してくれたキャリアプランという授業で、もう一つは萩原先生の日本事情演習3です。二つの授業を通して、日本の企業文化と特有な就職活動を知ったり、実用的な履歴書の書き方を身に付けたりするようになりました。お茶大にこのような授業を取る甲斐があって、国に習得できない知識を習って、日本に就職の目標に近づけていく気がします。今学期の発表や宿題は前学期より多かったですが、様々な将来に役立つ知識をもらって、ずいぶん勉強して充実した日々でした。

生活のこと

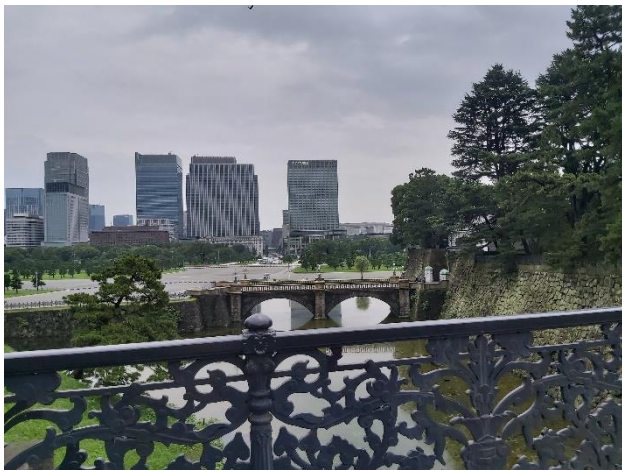
コロナウイルスの影響で、ほぼの時間は寮に過ごしました。最初はちょっと退屈でしたが、寮にいる時間が増えることを活用して、お家でもできる趣味を育てるようになりました。例えば、外食の代わりに毎日自炊するため、料理のことが少しずつ得意になってきて、今も料理にはまっています。緊急事態宣言が終わった直後、ちょっと収まったかなと思いながら、一人で人がより少ないところへ行きました。例えば、国立東京博物館に期間限定の着物展覧会を見学したり、皇居に参観したり、カフェで本を読んだりしました。こうして、この一年間に一番成長したことは心理的な独立だと思います。以前は結構寂しがりやでしたが、今は一人で旅行しても出かけても、寂しさや孤独感を全然しなくて、その代わりに、一人の時間をずいぶん楽しめるようになりました。

将来のことと感謝の気持ち

卒業後、日本に就職したらうまく日本社会に溶け込めるかどうか、まだわかりませんが、留学の間の成長や経験を活かして、来年、新卒のうちに自分に挑戦して、

目標を実現したいと思います。

最後は、感謝を表したいと思います。お茶大に留学した一年間、たくさんの優しい先生たちと出会って、萩原先生、指導先生の森山先生、個々の授業の先生があって、順調に留学を完成しました。心から感謝の念に堪えまん。先生たちのお世話になって、まことにありがとうございました。



上：皇居から見る正門石橋

下：池袋のバックカフェ

右：「きもの」展覧会

